

第5福竜丸展示館現在図

展示館への道案内

☆展示館に歩いて行かれるには地下鉄東西線を利用され、都バス乗り換えが便利。
都バス(新木場行) 夢の島下車。

入場無料 毎日 9:30~16:00 月曜休館

※地方から上京の方は、東京駅・八重洲北口通路で東西線(大手町駅)へ、上野駅・地下鉄(銀座線)で日本橋駅のりかえ東西線へあとは上の道案内によること。

連休で賑った展示館 毎日の人波に係員も大喜び

四月二十九日から五月五日までのゴールデン・ウィークは、各地とも記録破りの人出となつたようですが、夢の島の展示館にも連日、多数の来館者がありました。いま、それを日付順に追ってみますと、

四月二十九日	一、〇〇二名
五月一日	八三名
五月二日	九三七名
五月三日	九二七名
五月四日	九二七名
五月五日	九二七名
計	二、九五七名

一応のブームで、係員は嬉し

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

通算来館者 16万人突破

4月 月間来館者数	3,064名
月平均来館者数	2,748名
日平均来館者数	135名
通算来館者数	162,114名

親まれてきた展示館 去る三月に江東区役所から同広報発行の江東区の地図を頂きましたが、その地図上には展示館が明記されているのは元より、裏面の案内にも公共施設として載っています。また、国電亀戸駅の構内のガラス板の大きな江東区案内図にも、絵入りで展示館が示されています。

これらのことと、展示館への来館者数が十六万人を突破したことなどは、展示館が区民をはじめ都民に広く親しまれてきていることを示しています。

来館者の層と地域の拡大 本号の四面には、展示館においてになる地方の方のための案内がのっています。実は、これは地方においでの方からの強い要望によつたもので、近頃は近県のみならず、広島や長崎など地方居住の方からの問い合わせが

主張

展示館の公共性の増大とその運営の責務

多く、それも学校関係者から一般市民・主婦の方まで、幅ひろい層にわたっています。

労組とか、民主団体とかに偏らず、きわめて自由な立場からの来館者がふえているのが、最近の傾向であります。

展示館の公共性とその尊重 以上の事実は、東京都立展示館の存在が一般に認識され、意識的に利用されてきていることを示すもので、その公共性がますます確立されたものと申すべきであります。

従って、その展示館の運営に当る平和協会としては、何よりもその公共性を尊重する立場に立つべきであります。

運営には細心の注意を ひとたび、展示館の公共性の尊重の立場に立つなら、その運営においては、その趣意が買か

れるよう、細心の注意が必要となつてきています。

たとえば、展示館内の展示資料に誤りのないことは元より、その説明なども正確であり、一字の誤字・脱字もゆるぎのないこととなります。また、一般に理解しにくい用語の使用や一面的な解釈も避けねばなりません。

現在、私もはそれに全力をつくしてはいますが、来館者や関係者の卒直なご批判やご意見を期待して止みません。

二挨拶

去る三月九日、心臓を冒され、二ヶ月近くの入院ののち、漸く帰宅を許されるに至りました。

この間、公私ともにご迷惑をかけ、また、多くの方から御見舞を頂きましたことを深く陳謝いたします。

紙上を借りて、一言、ご挨拶申し上げます。

四月二十八日
専務理事 広田重道

猿橋勝子女史の退官記念祝賀会

五月一〇日夜・盛大に

このほど気象研究所の地球化学研究部長を定年退官された猿橋勝子先生(平和協会評議員)の退官記念祝賀会が、五月十日夜、神田・学士会館で二百名をこえる参加者でひらかれました。この退官記念祝賀会は、平和協会からは静養中の広田専務理事の代理として唐笠事務局長が出席し、広田専務から

の記念の色紙を贈呈しました。なお、席上、向坊東大総長・浅田東邦大学長・三宅泰雄平和協会々長など多くの著名人から祝辞がのべられ、猿橋先生からは感謝の挨拶と女性研究者の地位向上のための「猿橋賞」の創設が発表され、参加者の大きな拍手を浴びました。

編集後記

ことしは稀にみる不順な天候のためか、惜しまれる多くの先輩が亡くなられ、また、健康を害している方が多いようで、まことに憂慮すべきことです。

▼物価高、不愉快な事態、とかく恵まれない環境、きびしい条件のもとで働いているものにとつて、恐ろしいつまづきとなるのは『過労』という陥し穴であることを忘れてはなりません。

▼五月になって、漸く気候も落ち着いてきたようですが、平和協会としては、この一年を大きな前進の年と考えて張切っています。

▼この福竜丸だよりも、皆さまにもっと親しまれるように、紙面を生き生きとさせるよう、一層の努力をいたしたいと考えていますので、読者の皆さんからの通信をお待ちしています。

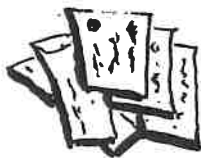
▼夢の島は、いま、木々の緑も色を増し、五月の空に若さをみ

(H)

連載

平和をねがう人々の声 (8)

久保山さんによせられた手紙



◆二人の女性
今回は、先号の富沢千鶴さん
に続き、もう一人の女性、原百
代さんの手紙を紹介したいと思
います。

原さんは今もご健在で、お会
いする機会を得ました。都内の
アパートの一室。中国関係の本
や資料に埋った小さな部屋。そ
こが、現在の原さんの生活の場
でした。

◆
◆
初めて一筆申し上げます。
私は或いは新聞などで御存知か
も知れませんが、ビ
キニ被災事件以来、何とかして
この日本の実情を、つんばれ敷
にあるアメリカ国民の耳に達し
させたいとの急願で、努力して
まいったものでございます。な
お、六月以降は本格的(?)に

ペンを通じての原水爆禁止運動
を続けてまいりました。

七月は焼津へまいりましたが、
時間の関係で、見崎、山本、鈴
木鎮三様などの御宅しかまわれ
ませんでした。先月末に東大の
方へ御見舞に参り、皆様と御話
する機会を得ました。続いて九
月に入りましたら、早々と国立
第一の方へ伺おうと存じて居り
ましたのに、今度のこのよう
になりまして、御主人様はじめ
皆様にお会いすることができま
せん、その点残念でございます
した。

御主人様御病状急変以来、そ
の新聞記事(朝日、読売)ほと
んどすべてを逐一、英訳いたし
只今、アメリカの民主雑誌コン
テンポラリー・イッシュンウへ航
空便で送ったばかりのところご
でございます。向うの新聞にはこ
ちらの記事がそっくりそのまま

伝わりません故、こちらの実情、当時の苦しい生活に負けそうに
雰囲気、御主人様御病状、あな
たやお子様、御老母様のことな
ど、コ社を通じて、向うの人へ
伝えたい一心でございます。

九月五日 原 百代 (以下略)

原百代さんは現在、六十七歳
です。かつては菊池寛の文芸秘
書をし、さまざまな翻訳の仕事
をしてきた経歴から、求めよう
と思えば「安定」した生活を求
められたのでしようが、原さん
は別な道を歩いています。ビキ
ニ事件が起きれば、報道関係者
たちに混って、実情をルポし、
福竜丸の人たちのために闘い、
そのことよって、当時働いて
いた米軍を解雇されています。

世の中の不正に黙っていられ
ない原さんは、あやまった見方
をされた史実に対しても見過ご
すことができないのでしよう。
「私は前だけを向いて歩きた
い」と言う原さんは「過去」を
あまり話したがりますが、原
さんには、女性の可能性と共に
ある凄絶さを感じさせられまし
た。自伝の執筆を求めめる声は、
私ひとりではないようです。



原爆の図・丸木美術館
十四周年記念式典に参加して

五月五日は埼玉県東松山市、
原爆の図・丸木美術館の開館記
念日で、今年は十四周年目に当
たり、小雨の中、約二百名の人
々がお祝にかけつけました。

前館長であられた故安井郁氏
の冥福を祈る黙とうのあと、式
典は始まりました。理事長の袖
井林二郎氏から、展示場の増設
計画が発表され、今後の協力が
呼びかけられました。

続いて行なわれたインドの画
家A・ラマチャンドラ氏のあい
さつ、フランスの反戦活動家ラ
ンザデルヴァスト氏のメッセー
ジ(テープ)は丸木ご夫妻のお
仕事に対する困境を越えた深い
感動を伝えていました。

三月に心筋梗塞で倒れられた
丸木位里氏も元気な姿で出席さ
れ、今年予定されていたブルガ
リア、東ドイツでの展覧会は、
大事をとって中止された事を残
念そうに語られました。また、



奥様の俊子さんは胎児性水俣病
の子供さんを訪問された時の話
を次のように語られました。「
「発作が起きたんです。股の間
にタオルを挟んで欲しいと言わ
れたんです。そうしないと足と
足がすれて血が出るというん
で、発作とはそれ程、激しく
苦しいものなのです。その患者
のお母さんは、長い間、水銀に
汚染された魚を食べていたんで
す。戦争では、一瞬に何十万の

人たちが殺されました。平和の
時代は、ゆっくりゆっくり殺さ
れていくんですね。原爆変じて
原爆。三十年後に生まれて来る
子供たちが、健康である保障を、
どの科学者が出来ますか」
原爆観音像が納まった藤棚の
前。丸木ご夫妻に注ぐ参加者の
やさしい目。川があり、花があ
り、緑がある自然に囲まれた丸
木美術館。館内を埋めつくす「
原爆の図」「アウシュビッツの
図」「水俣の図」……
そこは、生きている者たちの
ひとつのあこがれの地であると
共に、苦しみ抜いた死者の安住
の地でもあるような気がしまし
た。「暗い絵」にもかかわらず、
人々をひきつけるのは、生者も
死者も包み囲む人間愛があるか
らでしょう。

来館者の
声から



貴館内の展示物をくまなく見
学させて戴き、たっぷり二時間
を要して一巡致しました。売店
にて、広田氏の著「第五福竜丸」
を求め、多忙の折から無精にも
未だプロローグを読み始めた処
です。被災船に就いては、本件
を含めある程度は概要は存じて
居りましたが、先日の見学で認
識を新たにしました次第です。

自分自身では、永久平和主義
者たることを自認して居り、貴
館を拝見し未だ同じ様な考えの
人々が沢山居られることを知り
感銘を受けました。来年は郷里
の福島へ帰る予定ですが、もう
一度友人と見学したく存じます。
神奈川 M・N